

I 保育の計画性		5段階評価
1、園の教育理念・教育方針の理解・保育所保育指針の理解		
① 園の教育理念や教育方針を理解し共感している		1.8
② 園の方針、園長の考え方について園長や主任と話し合い保護者に説明できる		2.4
③ 保育所保育指針を理解し、児の姿や環境の構成、保育者とのかかわりなど具体的な事例を思いうかべることができる		2.3
2、指導計画の作成		
① 指導計画は、児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している		2.2
② 行事は、児の生活上の意義を十分検討した上で、指導計画に組み入れている		2.2
3、環境の構成		
① 指導計画に基づいて、児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている		2.1
② 楽しい雰囲気の中で、安心して遊び込めるように遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている		2
③ 児の活動がより豊かになるように児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている		2.1
④ 児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境をしている		1.9
⑤ 異年齢が自然に交流できるような環境構成をしている		2.2
⑥ 食について保育士と栄養士が意見交換の場を持ち、連携して食育活動の環境構成をしている		2.2
4、保育と計画の評価・反省		
① 自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に活かせるように行っている		2
② お互いに保育を見せ合い、検討し、評価・反省を加え、児の生活と自らの保育につなげている		2.1
③ わからないことをそのままにせず、先輩等に聞き、学び、自分の力にしている		1.7

II 保育のあり方、児への対応

1、健康と安全への配慮		
① 朝の登園時は特に視診を大切に、児の健康状態を確かめている		1.7
② 体調が悪そうな時や万一事故が起きた場合には適切な処置を行いすぐに園長・主任へ報告している		1.6
③ アレルギー、熱性痙攣、脱臼癖、その他、既往症について児の健康情報を把握している		1.9
④ 体重・身長などの測定を定期的に行い家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している		2
⑤ 睡眠が十分取れるような静かな環境を整え、午睡の状態を確認している		1.7
⑥ 未満児一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄のリズムに合わせておむつを交換したり、トイレに促している		1.8
⑦ 0歳児)家庭と連携をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている		1.8
2、児のみと理解		
① 児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされるよう配慮している		1.8
② 一人の児をみながらじっくり見ながら見えない所で活動したり遊んでいる児についてもある程度その活動の様子を推察することができる		2.1
③ 個々の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる		2.1
3、指導とかかわり		
〔心のよりどころとして〕		
① 落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語りかけたりして児が人との関わりを楽しむことや心地よさを味わえるようにしている		1.8
② 泣いたり、ぐずったりサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている		2
③ 一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れ認めるようにしている		1.7
④ 児との温かなやりとりやスキンシップを常に心がけている		1.5
⑤ 児の話をよく聞くようにしている		1.8
⑥ “一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている		2
〔遊び・活動の援助者として〕		
① 乳幼児の心身の発達及び生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育している		2.3
② 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとり、安心感と自己肯定感がもてるような言葉かけをしている		1.9
③ 児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している		2.2
④ 児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている		1.8
⑤ 禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせる言葉や態度は控えている		2
〔その他〕		
① 家庭環境やこれまでの生育歴などを考慮してかかわっている		2.1
② 支援を必要とする子に個別対応やクラスの子ども達とともに育ちあえる保育を積極的に進めるように考えている		2.2
4、保育者同士の協力・連携		
① 職員全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる職員が適切な言葉かけや対応をしている		2.2
② 指導上配慮を必要とする児については、園全体で話し合い共通理解を持って対応するようにしている		2
③ 他クラスや異年齢児との触れ合う機会がもてるようにさまざまな工夫、保育の形態に配慮している		2.1
④ 職員同士、積極的にかかわり、常にコミュニケーションをとり、情報を共有している		1.7
⑤ 他のクラスのことや担当行事でなくても協力して率先して手伝うようにしている		2.3

III 専門性に関する研修・研究への意欲・態度

1、研修・研究への意欲・態度		
① 研修会や研究会に自己課題を持って積極的に参加し、スキルアップに努めている		2.5
② 研修で学んだことを整理し、日々の保育に活かしている		2.2
③ 自分の保育については自己課題を持って計画と反省を行い、保育のあり方や悩みについて他職員や主任、園長と話し合っている		2.2
2、遊具・教具・教材に関する専門性の向上		
① 園の遊具・教具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている		2.4
② 園の遊具や教材についてどのような使い方が危険か予測できる		1.9
3、今日的課題に関する専門性の向上		
① 子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景、環境・原因、実態はどうであるか興味・関心をもっている		1.8
② アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている		1.7
③ 保小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている		1.9

IV 資質や能力・良識・適正

1、専門家としての能力・良識・義務		
〔専門家としての能力〕		
① 専門知識や技能を身につけている		2.1
② 保護者に対し、児のことや自分の保育をわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくる事に努めている		1.9
③ 保護者への相談・助言・援助に関する知識及び技術を持っている		2.2
④ 仕事の手順や見通しを持って考え、能率よく行っている		2.2
⑤ 保育者の人間性が子供たちに影響を与えることを自覚している		1.6

〔良識とマナー〕	
① 児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている	1.6
② 朝と帰りの挨拶は立ち止まり、明るく丁寧にしている	1.8
③ 職員同士感謝の気持ちを言葉などで表している	1.5
④ 園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない	1.3
⑤ 服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている	1.4
⑥ 自己管理ができています	2
〔義務〕	
① 教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している	2.2
② 危機管理意識を常に持っている	1.9
③ 事故防止のための園内外の安全点検を怠らない	2.3
④ 締切りのある仕事や提出物の締切日、会議の打ち合わせの時間をきちんと守っている	1.9
2、組織の一員としての在り方	
① 他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	1.9
② 子どものこと、クラスの出来事で必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している	1.8
③ わからないことをそのままにせず、先輩等に聞き、学び、自分の力にしている	1.6
④ 当番や役割による仕事を理解し確実にしている	1.8
⑤ 上司の指示には責任を持って実行している	1.6
3、まわりを感じとれる感性・アンテナ	
① 教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている	2
② 社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている	1.8

V 保護者への対応・守秘義務

1、情報の発信と受診	
① 一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している	2.5
② 保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を写真やイラスト等を活用してわかりやすく伝える工夫をしている	2.1
③ 個々の子どもの様子を保護者へ話をしたり、連絡帳を使って伝え合っている	1.8
④ 子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するように努めている	1.8
2、協力と支援	
① 保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や主任等に報告や相談している	1.7

3、守秘義務の遵守	
① 職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない	1.2
② 秘密情報(保護者・園児等に関する個人情報、及び園の運営上の情報、保育計画等の情報)については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない	1.2
③ 秘密情報について新たに知りえたことについては、直ちに園長に報告している	1.4
4、対応上のマナー・良識	
① 正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	1.8
② 親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない	1.7
③ 電話では、簡潔に要領よく対話することを心がけている	1.7
④ 保護者からの依頼や伝言等についてはメモをするなどきちんと対応している	1.6
⑤ 保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障害、個性差によって、区別、差別していない	1.2
5、クレームへの対処の仕方	
① 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している	1.5

VI 地域の自然や社会とのかかわり

1、地域の自然・人々とのかかわり	
① 地域の人々と親しく挨拶や会話を交わしている	1.6
② 地域の自然を指導計画の中で位置づけて活用している	2.2
③ 実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している	1.9
④ 中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、その目的や意義を理解・確認している	2
2、小学校との連携	
① 園の保育内容が小学校への準備として繋がることを理解している	1.7